



2023年12月期 第1四半期決算短信〔日本基準〕（非連結）

2023年5月15日

上場会社名 株式会社セルシード 上場取引所 東
 コード番号 7776 URL <https://www.cellseed.com>
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 橋本 せつ子
 問合せ先責任者 (役職名) 経営管理部長 (氏名) 畑中 格 TEL 03-6380-7490
 四半期報告書提出予定日 2023年5月15日 配当支払開始予定日 —
 四半期決算補足説明資料作成の有無：無
 四半期決算説明会開催の有無：無

(百万円未満切捨て)

1. 2023年12月期第1四半期の業績 (2023年1月1日～2023年3月31日)

(1) 経営成績 (累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2023年12月期第1四半期	30	△19.1	△181	—	△184	—	△183	—
2022年12月期第1四半期	37	—	△191	—	△195	—	△199	—

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2023年12月期第1四半期	△6.81	—
2022年12月期第1四半期	△10.98	—

(2) 財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2023年12月期第1四半期	2,029	1,629	79.2
2022年12月期	1,543	1,178	74.8

(参考) 自己資本 2023年12月期第1四半期 1,606百万円 2022年12月期 1,154百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2022年12月期	—	0.00	—	0.00	0.00
2023年12月期	—				
2023年12月期 (予想)		0.00	—	0.00	0.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無：無

3. 2023年12月期の業績予想 (2023年1月1日～2023年12月31日)

(%表示は、通期は対前期、四半期は対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
第2四半期 (累計)	95	28.4	△450	—	△450	—	△455	—	△16.83
通期	200	58.2	△840	—	△840	—	△845	—	△31.26

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無：無

※ 注記事項

(1) 四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用：無

(2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更：無
- ② ①以外の会計方針の変更：無
- ③ 会計上の見積りの変更：無
- ④ 修正再表示：無

(3) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	2023年12月期 1 Q	27,659,419株	2022年12月期	24,422,619株
② 期末自己株式数	2023年12月期 1 Q	155株	2022年12月期	155株
③ 期中平均株式数（四半期累計）	2023年12月期 1 Q	27,029,347株	2022年12月期 1 Q	18,141,260株

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料P.3「1. 当四半期決算に関する定性的情報 (3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	2
(3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期貸借対照表	4
(2) 四半期損益計算書	5
第1四半期累計期間	5
(3) 四半期財務諸表に関する注記事項	6
(継続企業の前提に関する注記)	6
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	6
(セグメント情報等)	6
(後発事象)	7
3. その他	8
継続企業の前提に関する重要事象等	8

1. 当四半期決算に関する定性的情報

（1）経営成績に関する説明

当第1四半期累計期間におけるわが国経済は、新型コロナウイルス感染症に対する規制緩和により、経済活動の正常化が進み、景気は緩やかに持ち直しの動きが見られました。

一方で、原材料やエネルギー価格の高騰などによる物価の上昇、また欧米、中国ともに景気後退懸念が払拭されていないことなどから、依然として国内外の経済は先行きが不透明な状況が続いております。

当社はこのような環境の下、コスト削減による財務体質の改善と安定的な財務基盤の確立を図りつつ、再生医療支援事業及び細胞シート再生医療事業における活動を推進いたしました。その結果、当第1四半期累計期間における売上高は30,696千円（前年同四半期比7,268千円の減少）、営業損失は181,700千円（前年同四半期比10,077千円の減少）、経常損失は184,365千円（前年同四半期比11,520千円の減少）、四半期純損失は183,993千円（前年同四半期比15,288千円の減少）となりました。

セグメントごとの業績は次のとおりであります。

① 再生医療支援事業（細胞培養器材、製造受託）

細胞培養器材事業では、器材製品の拡販に向けた既存代理店との更なる協業強化、2023年3月開催の第22回再生医療学会総会への付設展示会に当社ブースを出展するなど、器材製品の積極的な販売促進活動に取り組みました。

当社細胞培養センターを活かした再生医療を支援する再生医療受託事業については、引き続き共同研究先である東海大学より先進医療にかかる自己軟骨細胞シートの製造を受託し、第1四半期累計期間には1症例の売上を計上いたしました。引き続き他の医療機関からの受託案件の獲得にも注力して参ります。

以上のような活動の結果、売上高は30,446千円（前年同四半期比7,518千円の減少）、営業損失は13,364千円（前年同四半期比7,375千円の減少）となりました。

② 細胞シート再生医療事業

細胞シート再生医療事業では、食道再生上皮シート及び同種軟骨細胞シートの細胞シート2品目の再生医療等製品の自社開発を中心とした研究開発を推進しております。

食道再生上皮シートは医薬品、医療機器等の品質、有効性及び安全性の確保等に関する法律（薬機法）の下、2020年10月に治験届を提出後、PMDAから受けた細胞シートの製造方法に関する指摘への検討に対しても取り組みつつ、追加治験を実施しており、製造販売承認申請の時期を2025年に予定しております。

同種軟骨細胞シートについては、国立研究開発法人日本医療研究開発機構（AMED）採択事業として「同種軟骨細胞シート（CLS2901C）の製品化に向けたセルバンク構築を含む企業治験開始のための研究開発」を引き続きその支援を受けながら開発を進めています。研究開発の進捗により、企業治験に使用する同種軟骨細胞シートを製造するための原料として、有効性と安全性を確認したマスターセルバンクを確立し、第22回日本再生医療学会総会においてこの成果を発表いたしました。

現在第3相試験（検証的試験）開始に向けて、独立行政法人 医薬品医療機器総合機構（PMDA）と最終合意に向けた相談を継続しております。2023年春に治験届提出の見通しとしておりましたが、2023年中には同種軟骨細胞シートの治験届を提出できる見込みです。

事業提携活動につきましては、国内外の会社との事業提携及び共同研究契約の締結に向けた活動を積極的に行ってまいりました。特に、昨今の同種軟骨細胞シートへの関心の高まりを踏まえ、複数の提携先候補と契約締結に向けた活動を積極的に推進しており、同種軟骨細胞シートの価値最大化のため、秘密保持契約締結下で提携先候補企業と交渉を継続しております。

以上のような活動の結果、売上高は249千円（前年同四半期比249千円の増加）、営業損失は114,667千円（前年同四半期比1,763千円の減少）となりました。

（2）財政状態に関する説明

（資産）

当第1四半期会計期間末の流動資産は、前事業年度末に比べて487,229千円増加し、1,719,166千円となりました。これは、現金及び預金が482,153千円増加したことなどによります。

当第1四半期会計期間末の固定資産は、前事業年度末に比べて1,955千円減少し、310,027千円となりました。これは、有形固定資産が1,955千円減少したことによります。

この結果、当第1四半期会計期間末の総資産は、前事業年度末に比べて485,273千円増加し、2,029,194千円となりました。

（負債）

当第1四半期会計期間末の流動負債は、前事業年度末に比べて35,592千円増加し、216,287千円となりました。これは、買掛金が7,633千円、賞与引当金が10,493千円増加したことなどによります。

当第1四半期会計期間末の固定負債は、前事業年度末に比べて1,852千円減少し、183,035千円となりました。これは、長期借入金が1,875千円減少したことなどによります。この結果、当第1四半期会計期間末の負債合計は、前事業年度末に比べて33,739千円増加し、399,322千円となりました。

（純資産）

当第1四半期会計期間末の純資産合計は、前事業年度末に比べて451,533千円増加し、1,629,871千円となりました。これは、新株予約権の行使による株式の発行により資本金及び資本剰余金がそれぞれ318,407千円増加した一方で、四半期純損失を183,993千円計上したことなどによります。

（3）業績予想などの将来予測情報に関する説明

第2四半期累計期間及び通期の業績予想につきましては、2023年2月14日発表の業績予想から変更はありません。

2. 四半期財務諸表及び主な注記

(1) 四半期貸借対照表

(単位：千円)

	前事業年度 (2022年12月31日)	当第1四半期会計期間 (2023年3月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	1,072,210	1,554,364
売掛金	25,775	25,616
商品及び製品	19,757	19,577
仕掛品	836	4,474
原材料及び貯蔵品	35,573	33,484
その他	77,783	81,649
流動資産合計	1,231,937	1,719,166
固定資産		
有形固定資産	98,334	96,379
投資その他の資産	213,648	213,648
固定資産合計	311,983	310,027
資産合計	1,543,920	2,029,194
負債の部		
流動負債		
買掛金	394	8,028
1年内返済予定の長期借入金	7,500	6,875
賞与引当金	3,384	13,877
その他	169,416	187,506
流動負債合計	180,695	216,287
固定負債		
長期借入金	151,250	149,375
資産除去債務	33,637	33,660
固定負債合計	184,887	183,035
負債合計	365,582	399,322
純資産の部		
株主資本		
資本金	1,467,377	1,785,784
資本剰余金	446,957	765,365
利益剰余金	△759,680	△943,673
自己株式	△227	△227
株主資本合計	1,154,427	1,607,249
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	△321	△321
評価・換算差額等合計	△321	△321
新株予約権	24,232	22,942
純資産合計	1,178,338	1,629,871
負債純資産合計	1,543,920	2,029,194

(2) 四半期損益計算書
(第1四半期累計期間)

(単位：千円)

	前第1四半期累計期間 (自 2022年1月1日 至 2022年3月31日)	当第1四半期累計期間 (自 2023年1月1日 至 2023年3月31日)
売上高	37,965	30,696
売上原価	21,552	15,200
売上総利益	16,412	15,496
販売費及び一般管理費		
研究開発費	108,102	111,301
その他	100,088	85,894
販売費及び一般管理費合計	208,190	197,196
営業損失(△)	△191,778	△181,700
営業外収益		
受取利息	5	5
為替差益	636	—
受取手数料	84	13
その他	3	2
営業外収益合計	729	21
営業外費用		
支払利息	209	196
新株発行費	4,627	2,274
為替差損	—	215
営業外費用合計	4,836	2,686
経常損失(△)	△195,885	△184,365
特別利益		
新株予約権戻入益	—	609
特別利益合計	—	609
特別損失		
減損損失	2,445	—
特別損失合計	2,445	—
税引前四半期純損失(△)	△198,331	△183,755
法人税、住民税及び事業税	950	237
法人税等合計	950	237
四半期純損失(△)	△199,281	△183,993

(3) 四半期財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

当社は、新株予約権の行使に伴う新株の発行により、当第1四半期累計期間において資本金及び資本剰余金がそれぞれ318,407千円増加し、当第1四半期会計期間末において資本金が1,785,784千円、資本剰余金が765,365千円となっております。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

I 前第1四半期累計期間(自 2022年1月1日 至 2022年3月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント			調整額 (注) 1	四半期損益 計算書計上額 (注) 2
	再生医療支援 事業	細胞シート 再生医療事業	計		
売上高					
外部顧客への売上高	37,965	—	37,965	—	37,965
セグメント間の内部売上高又は振替高	—	—	—	—	—
計	37,965	—	37,965	—	37,965
セグメント損失(△)	△20,740	△116,431	△137,171	△54,607	△191,778

(注) 1 セグメント損失(△)の調整額△54,607千円は、各報告セグメントに配分していない全社費用であります。全社費用は、主に経営企画部門に係る費用であります。

2 セグメント損失は、四半期損益計算書の営業損失と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

各報告セグメントに配分していない全社資産において、固定資産の減損損失を計上しております。

なお、当該減損損失の計上額は、当第1四半期累計期間においては、2,445千円であります。

II 当第1四半期累計期間(自 2023年1月1日 至 2023年3月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント			調整額 (注) 1	四半期損益 計算書計上額 (注) 2
	再生医療支援 事業	細胞シート 再生医療事業	計		
売上高					
外部顧客への売上高	30,446	249	30,696	—	30,696
セグメント間の内部売上高又は振替高	—	—	—	—	—
計	30,446	249	30,696	—	30,696
セグメント損失(△)	△13,364	△114,667	△128,032	△53,667	△181,700

(注) 1 セグメント損失(△)の調整額△53,667千円は、各報告セグメントに配分していない全社費用であります。全社費用は、主に経営企画部門に係る費用であります。

2 セグメント損失は、四半期損益計算書の営業損失と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

（重要な後発事象）

該当事項はありません。

3. その他

継続企業の前提に関する重要事象等

当社は、当社新株予約権の行使による資金調達の実施等により、前事業年度末の手元資金（現金及び預金）残高は1,072,210千円となり、財務基盤については安定的に推移しております。一方で事業面におきましては細胞シート再生医療事業の重要課題である細胞シート再生医療第1号製品の早期事業化の道程を示すまでには至っておりません。以上のことから、当社は当第1四半期会計期間末において、引き続き継続企業の前提に重要な疑義を生じさせるような状況が存在していると判断しております。

当社は当該状況の解消を図るべく、引き続き以下の施策に取り組んでおります。

当社細胞シート再生医療第1号製品の早期事業化の実現と事業提携の推進による収益機会の獲得

当社は、今後、食道再生上皮シート並びに同種軟骨細胞シートの開発を推進し、当社細胞シート再生医療第1号製品の早期事業化を実現すること、また事業提携先の開拓を通じて、更なる収益機会を獲得していくことで当該状況の解消を図って参ります。